

キトラ古墳の墳丘整備案について

(1) 基本的事項

- a. 墳丘遺構を保護した上で、「復旧」を基本として検討すること。
- b. 発掘調査成果の反映を検討すること。
- c. 墳丘北側の未発掘地を保存すること。

(2) 比較検討のため提示する3案の考え方は次のとおり。

メリット○、デメリット●

【A案】復旧第1案：調査前の旧状を基本として、墳丘面を覆土することにより「復旧」する。墳丘遺構保護及び表土流出防止のため、墳丘範囲をコグマザサなどにより被覆する。

○「復旧」検討の考え方に最も適合する。

●発掘調査成果については、墳丘範囲の表示にとどまる。

【B案】復旧第2案：「復旧」に重点を置きつつも、発掘調査成果を反映するため、下段部の遺構が確認されている東面部分など、一部の下段を盛土整形して表現する。A案と同じく、墳丘遺構保護及び表土流出防止のため、墳丘範囲をコグマザサなどにより被覆する。

○「復旧」の考え方に適合しつつ、A案よりも発掘調査成果を反映できる。

●下段部表現がわずかになるため、ほとんど視認できない可能性が高い。

【C案】下段部復元案：上段については「復旧」としつつも、下段については発掘調査成果の反映に重点を置いて南面部分を含めて復元的に整備する。墳丘遺構保護及び表土流出防止のため、上段についてはコグマザサなど、下段については貼芝などによって被覆する。

○発掘調査成果の反映として南面下段部を明示することで視認性が高まる。

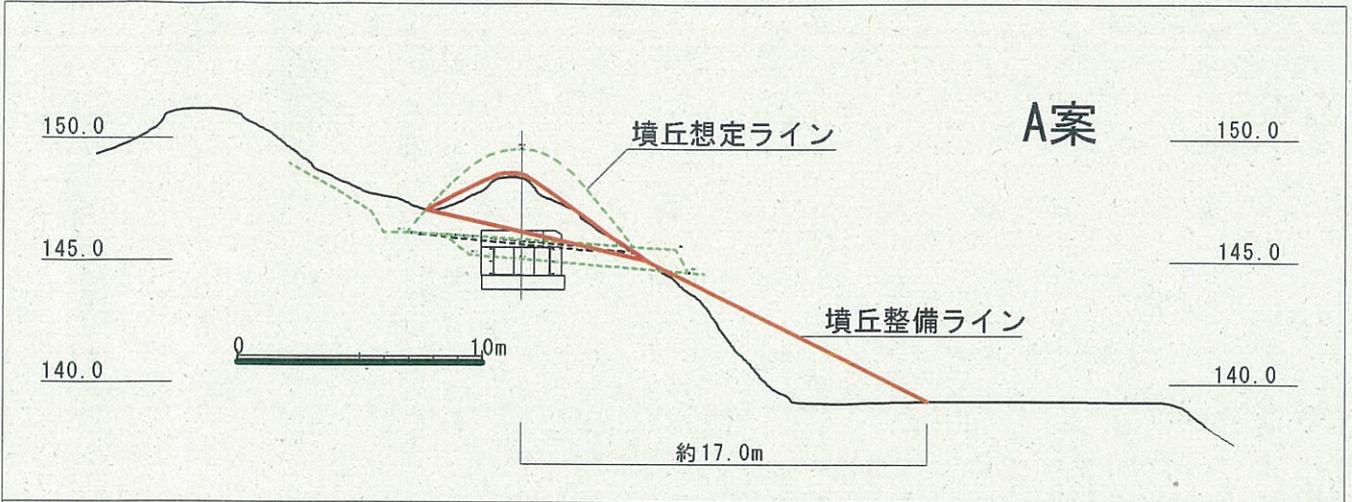
●南面下段部復元に伴い、造成地形への影響がある。また、未発掘地保存のため、北面部分については表現できない。

【参考】全体復元の場合：図上の復元案に基づき、墳丘面等の遺構及び北側の未発掘地を保護するため、全体に大きく盛土して復元的に整備することとなる。

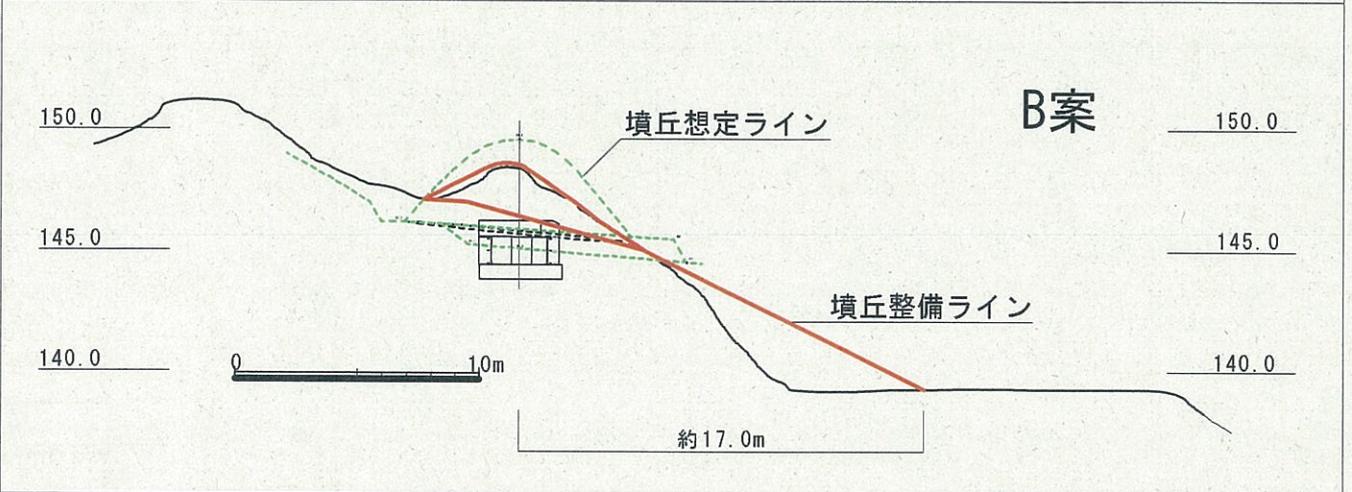
○築造時の墳丘形態の案を明示できる。また、盛土厚さが大きくなるため、墳丘の外部環境から石室の内部環境への影響が小さくなる。

●復元については高さに関する根拠が乏しい上、周辺地形との関係にも大きく影響を与えて全体の景観が変化する。また、北側の未発掘地を保存するために、相当程度の盛土が必要となり、地形造成への影響が広範囲に及ぶ。

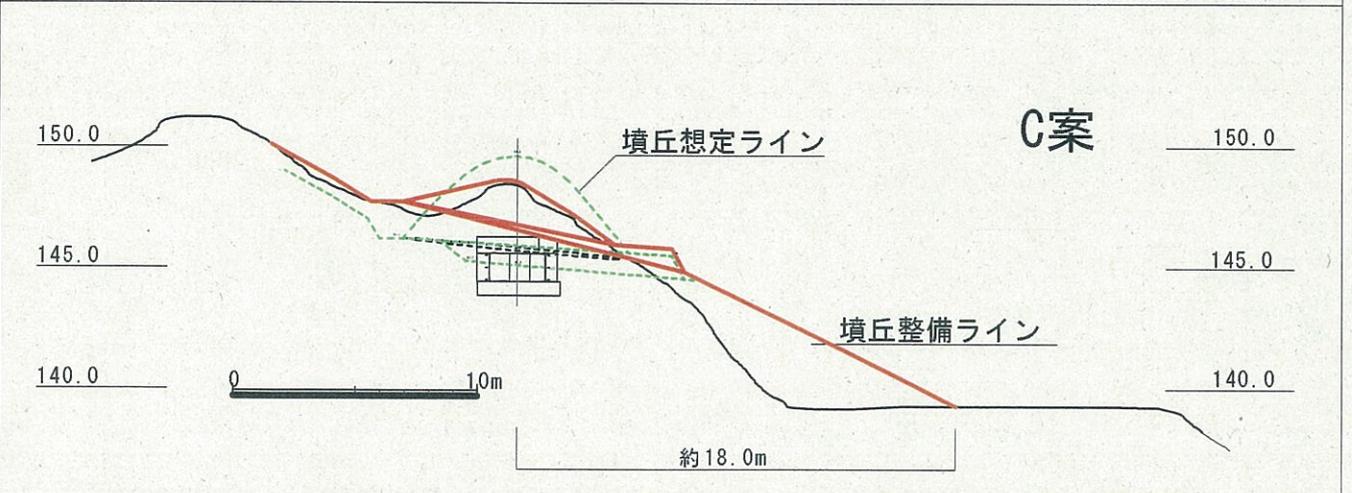
A案



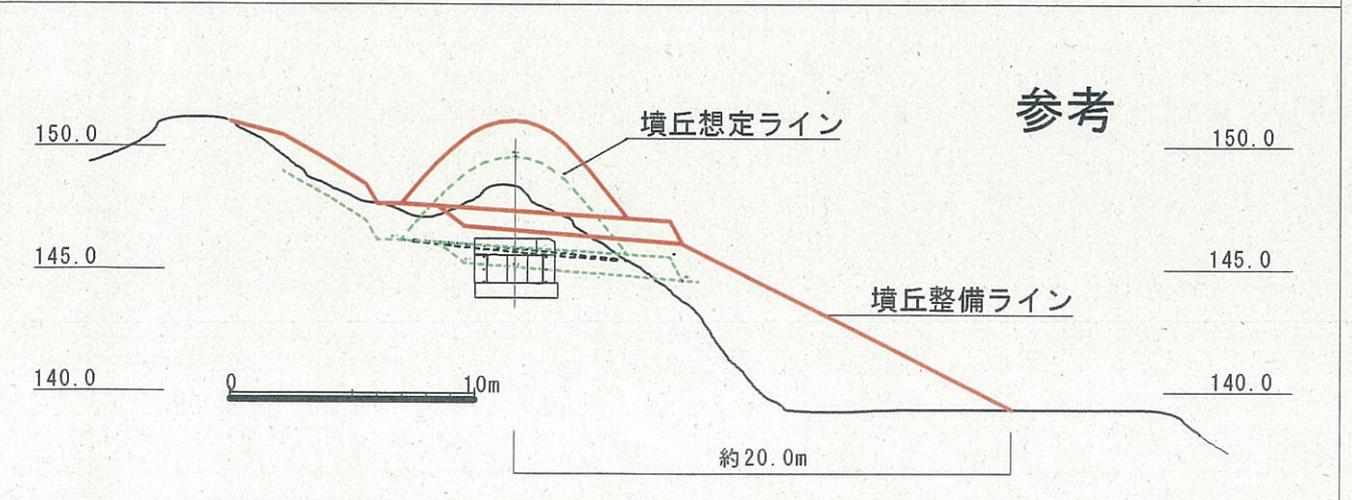
B案



C案



参考





A案



B 案



C 案



参考